

新・桃山の茶陶

特別展

Special Exhibition

Momoyama Tea Utensils: A New View

2018年 10月20日(土) - 12月16日(日)

根津美術館 NEZU MUSEUM

<http://www.nezu-muse.or.jp>



信楽・備前・伊賀の大胆な窠目と歪み、志野の白釉に浮かぶ力強い鉄絵、織部の多彩な形と爽快な釉薬の掛け分け、そして唐津の自由な文様表現。16―17世紀初頭に作られたこれら「桃山の茶陶」は、唐物にはない和物茶陶ならではの魅力に溢れ、日本を代表するやきもののひとつとなっています。

根津美術館では平成元年(1989)に『桃山の茶陶』展を開催しました。それからおよそ30年が経過し、その間、研究も著しく進展しました。最も大きな発見は京都三条瀬戸物屋町と、それを営んだ商人たちの存在です。この時代に、現代の私たちが見ても斬新に感じるデザイン感覚を備えた茶陶が誕生したのは、顧客の変化と増大を背景とする新たな流通ルートが作られたからでもあるのです。

本展覧会では「生産」と「流通」という観点から、伝世品とあわせて、京都で出土した資料を通し、最新の「桃山の茶陶」の世界をご覧ください。

重要文化財
ねずみしのちやわん やまは
鼠志野茶碗 銘山の端
1口 美濃 施釉陶器
日本・桃山～江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

根津美術館
NEZUMUSEUM



わものちゃとう

第一章 和物茶陶の誕生

侘び茶の草創期にあたる 16 世紀、天目に代表される唐物写しに加え、和物茶陶が誕生しました。信楽の鬼桶水指など和物独自の形が生まれ、備前では特別注文品が生産されます。いずれもシンプルな形の内に力強さがあり、すでに「桃山の茶陶」の気配が感じられます。

金属器を写したと考えられる桶形の備前焼水指。ねっとりとした上質の土と丁寧な作りにより、茶の湯のための特殊な注文品と考えられる。重厚な姿はまさに 16 世紀の和物水指を代表する名品と言える。



重要文化財
みずさし せいがい
水指 銘 青海
1口 備前 無釉陶器
日本・室町時代 16世紀
徳川美術館蔵

平成元年の「桃山の茶陶」展

昭和 62 年（1987）から 63 年にかけて京都の三条弁慶石町で信楽や備前・志野などのやきものが大量に見つかった発掘調査を受け、根津美術館では平成元年（1989）に「桃山の茶陶」展を開催しました。出土した陶片と同じタイプの伝世の茶道具を並べて展示したこの展覧会は、伝世品と出土資料の接点を探った画期的な内容と評価をいただきました。このたびは、平成元年以降の新たな発見を加えてバージョンアップした「新・桃山の茶陶」展をご覧ください。



平成元年（1989）「桃山の茶陶」展の展示風景

第二章 「桃山の茶陶」の始まり

16 世紀末期、和物茶陶には新しい様式が誕生し、生産量も増えました。美濃では黄瀬戸・志野があらわれ、九州では朝鮮半島より渡来した陶工によって唐津の生産が開始されます。これらの初期「桃山の茶陶」は静かな落ち着きを備えながらも、一点一点が強い個性を持ち合わせています。

胴の中程がくびれ、口縁部と裾部が開いた形は、鼓を立てた姿に似ていることから立鼓と呼ばれる。中国の青銅器に倣った古銅や青磁の蕪無花入がその祖形である。黄瀬戸釉を施すことで、唐物にはない表情をみせる。

重要文化財
き せとりゆうごはないれ たびまくら
黄瀬戸立鼓花入 銘 旅枕
1口 施釉陶器
日本・桃山時代 16世紀
和泉市久保惣記念美術館蔵



「桃山の茶陶」という言葉について

美術史では、桃山時代の下限を豊臣家が滅亡した慶長 20 年（1615）としますが、桃山様式のやきものは、それ以降の元和年間（1615～24）まで生産が続けられていました。また茶陶は、狭義には茶碗や茶入など喫茶用のやきもののことですが、懐石具や灯火具などを含める場合もあります。「桃山の茶陶」は、「茶の湯に用いられる桃山様式のやきもの」を指すとともに、その魅力を想起させる言葉として親しまれています。

第三章 「桃山の茶陶」^{きょうとさんじょうせ と ものや まち}と京都三条瀬戸物屋町

慶長年間（1596～1615）から元和年間（1615～24）、「桃山の茶陶」は隆盛を極めます。信楽・備前・志野・唐津などの製品には^{へらめ}篋目や歪み加わり、美濃では織部の生産が開始されました。和物茶陶の形や意匠はより大胆になり、器種が多様化、そして生産量が爆発的に増加したのです。その躍進には京都三条瀬戸物屋町の商人が大きく関与したと考えられます。ここでは、弁慶石町・中之町・下白山町・福長町・油屋町の三条通りの5地点より出土した陶片資料を通して伝世品を見つめ直します。

京都三条の瀬戸物屋町

桃山時代から江戸時代初期にかけて、京都の三条通りではやきものを販売する店が軒を連ね、その一画は「せと物や町」や「瀬戸物町」と称されていました。この界隈の商人たちが日本各地の窯へ赴き、指導して注文したやきものが販売されていたのです。さらに、この三条通りより出土した大量のやきものを見比べると、店によって取り扱う商品に特色があったこともわかります。



京都市指定文化財
中之町出土資料
京都市蔵

秋草がのびやかに描かれた志野^{やはずぐち}の矢筈口^{とつたい}水指。口縁部や裾部分に凸帯を巡らし、胴部は縦・横^{ちようせきゆう}に篋目を加えて整える。白く輝く長石釉の下から、濃淡のある鉄絵と、素地の鉄分が反応してあらわれた^{ひいろ}緋色が浮かぶ。



しの あきくさもんみずさし
志野秋草文水指
1口 美濃 施釉陶器
日本・桃山～江戸時代 16-17世紀
根津美術館蔵



まつかわびし
松皮菱形の鉢に四つの足を持つ織部手鉢。本作のように赤土と白土を繋ぎ合わせて成^{なるみおりべ}形した織部を鳴海織部と呼ぶ。大きな取っ手、大胆な器形、赤・白・緑の鮮やかな対比は圧倒的な存在感を放っている。

重要文化財
おりべまつかわびしがたてばち
織部松皮菱形手鉢
1口 美濃 施釉陶器
日本・桃山～江戸時代 17世紀
北村美術館蔵



てつえ あしもんとくり
鉄絵蘆文徳利
1口 唐津 施釉陶器
日本・桃山～江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

高さ 40cm もの大型の徳利。胴部いっばいに 4 本の葦を描き、裾部には簡略化された^{れんべんもん}蓮弁文を配す。桃山時代のおおらかさとともに、器形と文様に朝鮮半島の影響が感じられるのは、唐津ならではの特徴である。

第四章 「桃山の茶陶」の諸相—その流通をめぐって—

17世紀初頭、薩摩茶入や伊賀水指などは贈答品として用いるため大名がその生産や流通^{たづさ}に携わっていました。京都三条瀬戸物屋町以外の流通ルートによる作品をあわせてご覧になることで、「桃山の茶陶」の多様な魅力を一層感じていただけることでしょう。

安定感のあるどっしりとした姿、縦にほどこされた力強い篋目。そこに、「ビードロ釉」と呼ばれる緑色に発色した釉薬の艶やかな美しさ加わる。このような形は他に類例がなく、伊賀の独自性が見て取れる。



みみつきみずさし
耳付水指
1口 伊賀 無釉陶器
日本・桃山～江戸時代 17世紀
個人蔵

同時開催展

てかがみ
手鑑

手鑑は歌集や写経を切断した古筆切を貼り込んだ、歴代著名人の筆跡アルバムです。手鑑がどのように制作され伝来したかをたどります。



重要美術品

てかがみふんさいじょう

手鑑文彩帖

1帖 紙本墨書

日本・奈良～江戸時代 8-19世紀

根津美術館蔵

表紙に隔金具を付けた折帖形式の台紙の表裏に計153枚の古筆切を貼り込んだ大型の手鑑。名物切を数多く含む格の高い手鑑である。

展示室
5ちゃじん かいろ
茶人の正月—開炉—

11月、茶室では炉が開かれ、席中が一新されることから、茶人の正月とも言われます。開炉の茶会にふさわしく格式高い茶道具を取り合せます。



対角線を意識した構図と的確な筆致で、遠山を望む湖水の夕景を描く。馬麟は南宋の画院画家。五代皇帝・理宗による題詩と絵は別絹で、もとは画冊の見開きに貼られていた。

重要文化財

せきようさんすいず

夕陽山水図

馬麟筆・理宗賛

1幅 絹本墨画淡彩

中国・南宋時代 宝祐2年(1254)

根津美術館蔵

関連プログラム

講演会 「それは、京都三条から始まった」
(事前申込制) 日時： 11月10日(土) 午後2時～3時30分
講師： 当館顧問 西田 宏子

シンポジウム 「桃山の茶陶 ～どのようにつくられ、どのように売られたか～」
(事前申込制) 11月17日(土) 午後2時～4時
登壇者： 畑中 英二氏(京都市立芸術大学 准教授) 「京都三条瀬戸物屋町出土陶片(仮)」
岡 佳子氏(大手前大学 教授) 「近世初期の陶磁器の流通(仮)」
桜井 英治氏(東京大学 教授) 「中世後期の物流(仮)」

※ それぞれ、開催日の1か月前(10月10日、10月17日)の午前10時より受付開始(往復はがきは当日の消印より有効)。
※ 当館ホームページの「イベント情報」の申込みフォームから、または往復はがき(1参加者につき1枚)に参加ご希望の催事名・住所・氏名(返信面にも)・電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館講演会係宛にお送りください。
※ 先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。参加は無料ですが、美術館入館料が必要です。

スライド レクチャー 「新・桃山の茶陶」
(事前申込不要) 11月2日(金)、16日(金)、12月7日(金) 当館学芸員 下村 奈穂子
「手鑑というもの」
11月30日(金) 当館学芸部長 松原 茂

※ 毎回午後2時より45分間程度。開始の15分前より開場。
※ 先着順で定員(130名)になり次第締め切らせていただきます。参加は無料ですが、美術館入館料が必要です。

特別催事 「現代茶人の茶席」
(事前申込制) 当館庭園内の茶室で、今を生きる茶人の皆様のお茶席をお楽しみください。

10月28日(日) 小林 啓文氏 (弁護士)
10月31日(水) 池田 瓢阿氏 (竹芸家)
11月29日(木) 赤井 厚雄氏 (株式会社ナウキャスト 取締役会長)
12月16日(日) 森 万里子氏 (現代美術家)

※ 詳細が決まり次第、当館ウェブサイト・催事チラシにてお知らせします。

展示室
6

開催概要

展覧会名	特別展「新・桃山の茶陶」
主催	根津美術館
開催期間	2018年10月20日(土)～12月16日(日)
開館時間	午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
休館日	毎週月曜日
入館料	一般1300円(1100円) 学生1000円(800円) ()内は20名以上の団体料金、中学生以下無料
前売券	一般1100円 学生800円 ※ 2018年9月1日(土)～10月8日(月・祝) 「禅僧の交流—墨蹟と水墨画を楽しむ—」展開催期間中、 根津美術館ミュージアムショップにて販売
アクセス	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線<表参道>駅下車 A5出口(階段)より徒歩8分、 B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、 B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分
住所	〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1
お問合せ	TEL 03-3400-2536 (代表) http://www.nezu-muse.or.jp

秋の庭園



美術鑑賞のあとは、根津家私邸時代の面影を残す 17,000 m²の日本庭園で散策をお楽しみください。

例年 11 月末頃から紅葉が見ごろを迎えます。

※庭園入場には美術館入館料が必要です。

記者内覧会のご案内

上記展覧会の記者内覧会は、2018年8月31日(金)午後1時30分より開催予定です。ご案内ご希望の方は、当館広報課へご連絡ください。

今秋も三井記念美術館、五島美術館、根津美術館では、以下の展覧会を対象に、三館合同キャンペーンを行います。

◆三館合同キャンペーン「秋の三館 美をめぐる 2018」

【9月15日(土)～11月25日(日)】 三井記念美術館 特別展「『仏像の姿』～微笑む・飾る・踊る～」

【10月20日(土)～12月9日(日)】 五島美術館 特別展「東西数寄者の審美眼—阪急・小林一三と東急・五島慶太のコレクション—」

【10月20日(土)～12月16日(日)】 根津美術館 特別展「新・桃山の茶陶」

※上記展覧会の観覧済み入館券を、他2館の上記展覧会入館時にご提示いただくと、入館料が100円引きになります。また、上記展覧会すべての観覧済み入館券のご提示で、3館いずれか1館の次回展に無料でご入館いただけます。

※ 詳細は上記各館のホームページ・キャンペーンチラシをご覧ください。

次回展

企画展「酒呑童子絵巻—鬼退治の物語—」

2019年1月10日[木]～2月17日[日]



酒呑童子絵巻(部分) 住吉弘尚筆
8巻 日本・江戸時代 19世紀 根津美術館蔵

みなものらいこう

源頼光らが都の婦女を略奪する酒呑童子を退治する物語絵巻3種を展示。初の全巻公開となる住吉弘尚の8巻本が見どころです。

同時開催： 展示室5 「百椿図」

展示室6 「初釜—新春を寿ぐ—」

<リリース・広報のお問い合わせ>

根津美術館 広報課：所,村岡 TEL:03-3400-2538(直) E-mail:press@nezu-muse.or.jp

※本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報はお問い合わせください。(2018.7)